

◆ 上島 それでは、庁舎建てかえについて質問をさせていただきます。

先般示されました平成十五年度、十六年度の実施計画の中で、初めて庁舎建てかえの検討が明記されました。他の議員の議会報告には、建設費三百億、四百億などと金額まで示されているものもありますが、既にそこまで具体的な段階に入っているのでしょうか。そんなはずはないと思いますが、確認の意味を含め、今回、庁舎建てかえの検討に向けて、私が考える二つの重要な視点を示し、区のお考えをお伺いしたいと思います。

まず第一点目は、庁舎建てかえの必要性は明確にあるのかであります。いずれは建てかえが必要なことは当然であります。財政状況の厳しい中、まずもって建てかえという前提から検討をスタートすべきでないと考えます。大きな変化となる庁舎の建てかえについては、当然ながら、区民の一定の理解は必要になってまいります。庁舎の建てかえについて区民の中の論理には、日ごろ児童生徒が学んでいる小中学校が災害時には重要な防災拠点になり、その学校施設の建てかえが優先ではないかというのをございます。これも率直な意見だと思います。厳しい社会環境という背景を含め、現時点で建てかえという議論そのものに拒否反応を示す方も少なくなく、十分に理解されるような状況にないことを、区として認識すべきであると考えます。

そこで、さらにしっかりとした議論にしていくためにも、まず建てかえありきを前提とするのではなく、さまざまな可能性を俎上に上げ、ゼロから検討すべきと考えます。つまり、庁舎の建てかえだけではなく、さまざまな補強によって今の庁舎を活用していく手法はないのか。また、それぞれ幾らかかるかなど、トータルコストの比較を中心に、客観的な議論をまず行うべきと考えます。

また、別の観点として、事務スペースの不足ということも建てかえの大きな理由となっておるようございしますが、事務事業の徹底的な見直しはどこまで可能かということも、もっと真剣に議論されるべきだと思います。もし財政か何かの理由で建てかえができないとしたら、どう対応すればいいのか。もしくは本庁舎がなく、五つの総合支所だけとしたら、事務作業をどのようにこなしたらいいのか。厳しい財政の折の大事業計画だからこそ、このような厳しい民間企業の思考回路を役所も持たなくてはならないと思います。

そこで質問いたしますが、検討に当たり、議会を初め区民の理解を得ていく作業が改めて必要と考えますが、区のご見解をお聞かせいただきたいと思ひます。

そして第二点目、時代が大きく変化し、環境も大きく変わっている中で、今後、本当に大きな庁舎が必要なのかということでもあります。

例えば一つの大きな流れとして電子自治体という流れがございしますが、もちろん民間企業と同じように議論すべきではないと思ひますが、例えば最近では、社員全員に机を用意するのではなく、情報センター化による端末の共有化を行い、スペースの有効活用を行いながら、できるだけ広い範囲で仕事ができるような配慮がされております。

また、電子化の進展により、現在までの申請などの手続が変化する可能性もあり、また、庁内における情報の流通のあり方が大きく変わる可能性もあります。そして、そういった電子化に伴い、組織のあり方も大きく変わり、縦割りと言われている役所の構造自体、変わる可能性も出てまいります。今、全国的にもコールセンターというような試みも出てきておりますが、庁舎の持つべき機能が変わっていく可能性も大いにあります。

また、我が区の特徴として、総合支所制度のもと地域行政を進めているところでございしますが、本庁舎の機能とは何かということも大きく考え直すことにもなります。これから行政が行政としての役割に特化しながらも、役所が本当に信頼される存在になるときに、職員がどこで何をしているの

か。つまり、庁内でせつせと働くことが本当なのかということ、いま一度考え直すことも必要に思います。

まだまだほかにも申し上げたい時代の変化と課題がありますが、これらのことはすべて庁舎のあり方にも大きく影響してまいります。そう考えますと、この庁舎建てかえは、現在の行政の課題を含み、実にボリュームのある検討を要すると思います。大事業であるからこそ、庁舎の建てかえを単なる建物の建てかえと単純化、縦割り化するのではなく、行政全体の建てかえをする決意を持って当たっていただかなければなりません。

これから必要な検討は、まず今後の行政の役割とあり方をしっかりと見据え、今後、本庁舎が本当に必要なのかという視点のもと、現在の行政に付随する課題解決を経て、本当に必要なものを抽出していく。もしそれが膨大であるならば、煩雑な事務事業自体をしっかりと変えていくということが必要なのではないかと考えます。

そこでお聞きいたしますが、その辺のご認識はいかに。付随する課題と今後の検討の進め方をどのようにお考えか、あわせてお聞きいたしまして、壇上よりの質問を終わります。

◎ 総務部長 庁舎建てかえについてお答え申し上げます。

最初に、建てかえの必要性でございますけれども、現本庁舎は事務スペースが狭く、相談室等の必要な部屋が確保できない、分散していて住民の方にはわかりにくいといった多くの課題がございます。中でも老朽化が大変著しいということでございます。

現在の第一庁舎は昭和三十五年に建設され、既に四十三年が経過しております。一般的に鉄筋コンクリートの建物は耐用年数が四十年から六十年と言われております。この間、耐震性能の向上のため、改修補強工事を行ってまいりましたが、老朽化、防災拠点の確保という観点からは、建てかえの時期に来ていると考えております。もちろん現庁舎を今後も適宜、適切な補修を行い、対応する方法も選択肢としてはございますが、バリアフリー化の問題やITへの対応など抜本的な改善のためには、またトータルコストの観点からも、建てかえは必要なものであるというふうに考えております。

それから、付随する課題は何かというお話でした。庁舎建設につきましては、庁舎の情報化や老朽化など、さまざまな課題に対応するため、庁舎問題検討委員会において、一応十年ほど先を目標として設定し、新庁舎の検討を進めていくことにしております。このため、平成十五・十六年度を計画期間とする新たな実施計画においては、新庁舎の建設を計画事業として位置づけ、本庁舎の老朽、狭隘、分散などの課題の解消と高度情報化に適切に対応するため、新庁舎の建設に向けた検討を行うこととしております。

庁舎は一度建設いたしますと半世紀以上使用するものでございますから、お話のような電子自治体に伴う組織や執行体制がどう変わるのか、現在の地域行政制度がどういった方向に行くのか、さらには行政と民間の役割分担も含めて、現在の地方自治の制度はどうなるのか、その際の職員数はどうあるべきなのか、さまざまな観点からの検討が必要であると考えております。また、当然のことながら、庁舎の規模や区民利用施設を含む庁舎の機能、区民生活に影響が出ないように財源をどこに求めるのかといった点や、PFIを含む建設手法の検討も求められてまいります。

いずれにいたしましても、新庁舎建設につきましては、解決しなければならない課題が山積しております。今後、議会ともご相談しながら、また区民の理解も得ながら検討を進めるとともに、組織体制の整備を進めてまいります。

以上でございます。

◆ 上島 まず、さまざまな観点からの検討が必要であるというふうなご認識だというふうに今ご答弁いただきまして、一つ安心いたしました。

ただ、一点だけ質問させていただきますが、さまざまな工法の補修など、比較検討を今日まで特に行っていないということですよ。しかし、行政のお考えとしては、既に建てかえのお考えがあるということだというご答弁だったと思いますが、比較検討する必要がないというほどの判断根拠というのは何なのか。また、バリアフリーとのお話もありましたが、そのほかにも電源設備の課題など、細かくたくさん課題があるとも漏れ聞いております。

また、防災拠点の確保というお話も、簡単に、一言で言えば防災拠点の確保なんです。防災拠点の機能は何であって、現状どんな欠陥があるのか、そういったことも含めてしっかりと、議会に対して客観的かつ明確に示していただかなければ、これは建てかえへの理解は私は得られないと思うんです。その辺の検証をしっかりとさせていただいて、きちんと議会の中でお示しいただくべきと考えますが、いかがでしょうか。

◎ 総務部長 今お話がございましたけれども、現庁舎の課題といたしましては、老朽化、それから狭隘、バリアフリー、それからITへの対応、それから維持管理経費の増大といった問題、かなりたくさんございます。したがって、現庁舎をこのまんま維持していくのか、それとも新しく建てるのか、そういった検討も当然必要でございます。全く必要ないというふうには考えておりませんで、むしろ検討すべきというふうに考えております。

それから、今いろいろお話がございましたけれども、これからの地方分権の流れ、それから電子自治体の流れ、私ども独自の地域行政制度、こういったものがどういった方向へ行くべきなのか、そういったものを根本からすべて検討し直すということが、この庁舎の問題であろうというふうに考えております。

以上でございます。

◆ 上島 今しっかりとお答えいただきまして、ありがとうございます。

私は、この庁舎の建てかえというのは、時代の転換のシンボルとなると思うんです。まさに議会を含めて世田谷区政の見識というものが問われる事業だと思います。私は建てかえに反対しているのではなくて、大事業に対する進め方として重要な視点を見落としていないか、また、納税者に対する責任を十分に自覚しているのかということを確認しているだけであります。

これから行政が、役所が、公共サービスがどのようになっていくかという見通しも持たずに、その新たな一歩もまた踏み出さずに、ハード面だけの建物の建て方やそのやりくりを検討するというのは、私は時代錯誤というふうに考えます。庁舎建てかえの時期を目途に行財政改革の懸案事項を片づける。逆を言えば、行革が完成しなければ庁舎の建てかえは行わない、それほどの姿勢というのが、この時代に私は要求されているというふうに思います。

庁舎の建てかえについて、これからも質問をさせていただきますが、いずれにしても、多くは新しい区長が高い見識のもと、どれだけの覚悟を持って取りかかるかということに大きくなってくると思いますが、まずはここは行政としてそのような準備、心構えということをお願い申し上げまして、私の質問を終わります。